

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
()内は前回調査時予測

(判断D. I.)

	2015/3月	6月	9月	12月	2016/3月	6月	2016/9月までの予測
業況判断 < 良い - 悪い >	▲4	13	8	6	2	(2) 8	0
うち製造業	27	27	9	9	18	(9) 0	9
非製造業	▲14	8	8	5	▲3	(0) 11	▲3
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲13	▲9	▲9	▲15	▲7	(▲17) ▲2	▲5
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲6	▲3	5	0	0	(—) 0	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲5	▲5	2	0	▲2	(▲9) ▲7	▲13
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲15	▲13	▲15	▲9	▲28	(▲30) ▲24	▲30
資金繰り < 楽である - 苦しい >	▲2	6	▲10	▲2	▲2	(—) 2	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	24	25	15	26	22	(—) 20	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲11	▲7	▲7	▲7	▲22	(▲18) ▲22	▲11
販売価格 < 上昇 - 下落 >	9	0	2	▲5	9	(4) 7	5
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	40	36	27	26	15	(24) 30	34

(注) 2014年9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年12月以降は見直し後の新ベース。

「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2016/9月までの予測」は調査対象外。

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

(事業計画)

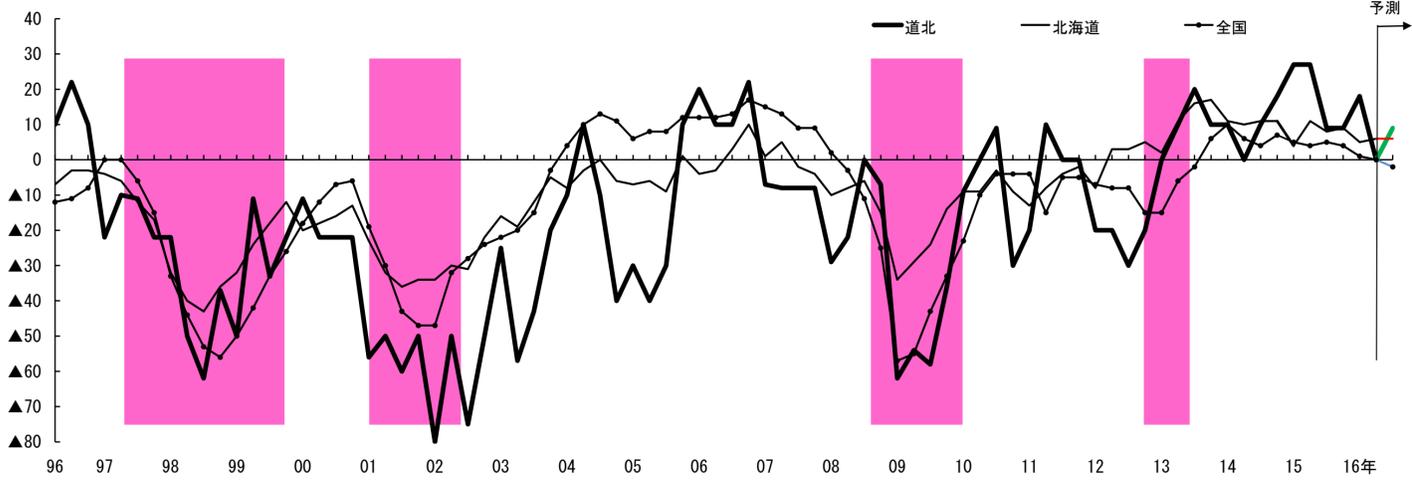
	2014年度実績	2015年度実績	2016年度計画			
			上期		下期	
売上高	-4.3	+1.0 < +1.0 >	-1.7 < -2.1 >	-0.2 < -2.2 >	-3.0 < -2.1 >	
経常利益	-47.4	+70.2 < +6.9 >	-4.5 < +12.0 >	-9.6 < +1.9 >	+0.1 < +22.0 >	
当期純利益	-57.0	2.2倍 < -17.2 >	+21.7 < +5.7 >	-4.6 < -2.1 >	+60.7 < +13.5 >	
設備投資額	+97.6	-69.0 < -5.5 >	-26.8 < +39.9 >	+19.0 < +76.0 >	-65.2 < -12.0 >	

2016年6月短観・調査結果

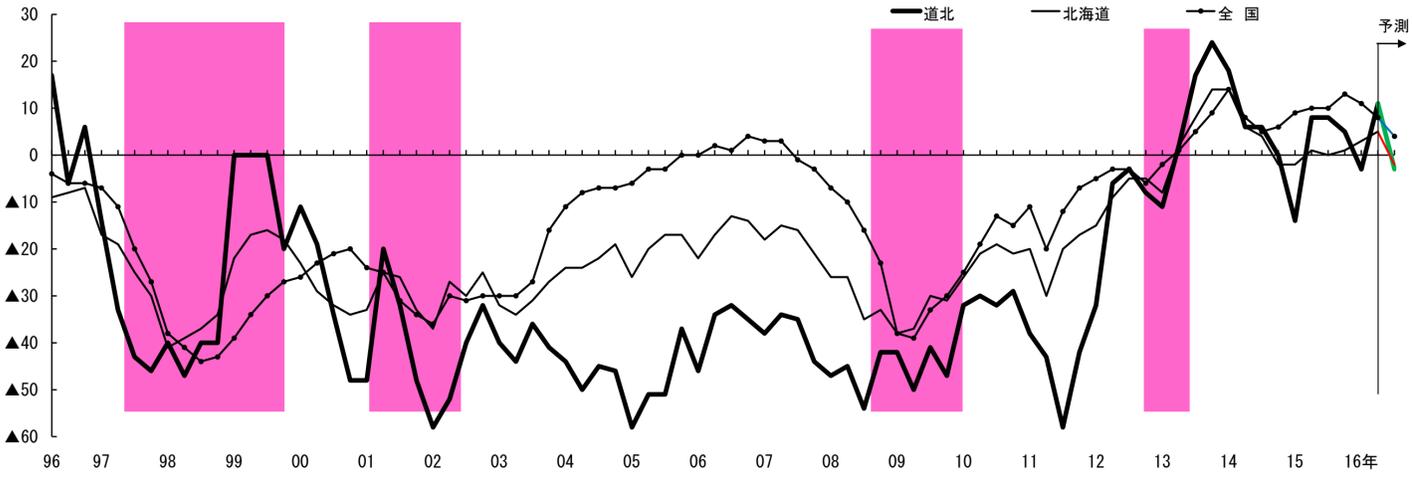
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)
 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
 2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。
 シャドローは景気後退期（内閣府調べ）

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2016年6月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 48 社（製造業 11 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 48 社）
- 回答期間：2016 年 5 月 30 日～6 月 30 日

1. 業況判断 DI

- 6月の業況判断 DI（全産業ベース）は+8 と、前回 3 月調査に比べて改善した（前回+2、前回比+6 ポイント）。
 - 製造業の業況判断 DI は±0。建設資材関係や電気機械を中心に前回調査比悪化した（前回+18、前回比▲18 ポイント）。
 - 非製造業の業況判断 DI は+11。建設関連、小売やサービス業を中心に前回調査比改善した（前回▲3、前回比+14 ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・2016 年 9 月までの予測：+8⇒±0）は、悪化を予測。
 - 製造業の業況判断 DI は、建設資材関連を中心に改善する見込み（±0⇒+9）。
 - 非製造業の業況判断 DI は、建設関連を中心に悪化を見込んでいる（+11⇒▲3）。

2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超－供給超〉」（▲7⇒▲2）は、前回比供給超幅が縮小。先行きは小幅ながら再び供給超幅が拡大する予測（⇒▲5）。
「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（±0⇒±0）は、前回比不変。「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（▲2⇒▲7）は、不足超幅が小幅拡大。先行きも不足超幅が拡大する予測（⇒▲13）。
- 「雇人員判断 DI〈過剰－不足〉」（▲28⇒▲24）は、前回比不足超幅が小幅改善したものの、引続き不足超とする先が多い状況。先行きは、不足超が再び拡大する見通し（⇒▲30）。
- 「仕入価格判断 DI〈上昇－下落〉」（+15⇒+30）は、建設、運輸やサービス

などで「上昇」と回答した先が増えたことから上昇超幅が拡大。先行きに関しても、上昇超幅が拡大する見込み（⇒+34）。「販売価格判断 DI<上昇－下落>」（+9⇒+7）は、業種ごとのバラツキが大きいものの、全体としては小動き。先行きも同様の傾向（⇒+5）。

- この間、企業を取り巻く金融環境についてみると、借入金利水準が一段と低下する中で、金融機関の貸出態度も引続き緩い状況が続いている（「借入金利水準判断 DI<上昇－低下>」：▲22⇒▲22、「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い－厳しい>」：+22⇒+20）。こうした中で、企業の資金繰りも好転している（「資金繰り判断 DI<楽である－苦しい>」：▲2⇒+2）。

3. 事業計画

- 2015 年度の売上高の実績は、前回調査時点での見込みに比べ若干上方修正となり、前年度比+1.0%となった。経常利益は、建設関連、運輸やサービス業を中心に、全体で前年度比+70.2%、当期純利益では同 2.2 倍の増益となった。一方、設備投資額に関しては、前年度にみられた大口の工場・施設等の新增設が当年度は少なかったことから、前年度比▲69.0%と大幅に減少した。
- 2016 年度は、売上高に関しては、前年度比▲1.7%と小幅減少の計画。経常利益では、同▲4.5%の減益を見込んでいるが、当期純利益では、同+21.7%の増益の計画。設備投資は、現時点では同▲26.8%の計画。

以 上